

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月21日(水)

事務事業		道の駅管理事業		担当課	商工振興課	担当係	観光物産係	管理番号	37213	
総合計画	大項目	3	活力とにぎわいにあふれるまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	2	雇用とにぎわいを生み出すまちづくり		根拠法令 個別計画等	深谷市ふるさと物産センター条例				
	小項目	2	観光資源の整備と活用							
	主要プロジェクト									
事業概要		市内に3か所ある道の駅（おかべ・はなぞの・かわもと）の施設管理や地域産品等の販売を行うことで、地域産品のPRのほか、地域活性化の一端を担い、市の玄関口として立寄型観光の振興を図ることを目的とする事業である。								
目的 ※何のために		立寄型観光の振興を図るため。								
対象 ※誰・何を対象に		道の駅施設、指定管理者、市内外利用者、地権者								
手段 ※どのように		深谷市物産館管理、岡部ふるさと物産センター指定管理、花園地域物産館アルエット指定管理、道の駅（おかべ・はなぞの）駐車場の管理								
成果 ※何を求めるか		施設を効率的に運営することができ、多くの集客が見込める。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他（ ）								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額（円）
		一般会計	7	商工費	1	商工費	3	道の駅管理費	道の駅管理事業	70,921,902
本事業の 主な業務		・ 深谷市物産館の管理運営							・	
		・ 岡部ふるさと物産センター指定管理							・	
		・ 花園地域物産館アルエット指定管理							・	
		・ 花園地域物産館アルエット北側駐車場の土地の借り上げ							・	
		・							・	
		・							・	

2. 事業費（投入コスト）

単位：円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画		道の駅おかべ・はなぞの指定管理 道の駅かわもと直営 埼玉県ブロック事務局業務	道の駅おかべ・はなぞの指定管理 道の駅かわもと直営 埼玉県ブロック事務局業務				
事業費	予算（現額）	46,114,000	75,417,000	56,446,000	56,745,000		
	決算額	45,300,027	70,921,902	0	0		
	財源内訳						
	国支出金	38,000	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	地方債	0	0	0	0		
人件費	他特定財源	43,572,849	0	43,711,000	43,735,000		
	一般財源	1,689,178	70,921,902	12,735,000	13,010,000		
	総事業費試算	49,336,223	75,801,027	61,827,584	62,126,584		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値	実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
活動指標 1	実績値の算出式		万円	4, 123. 00					
	道の駅指定管理料	目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
成果指標 1	実績値の算出式		千人	936. 40					
	道の駅入込客数	目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
成果指標 2	実績値の算出式		件	0. 00					
	施設管理不備による事故発生 件数	目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	B	今年度は令和2年度から3年計画で進めていた『道の駅はなぞの』の大規模修繕の最終年であったことから指定管理料が目標値を上回ってしまったが、この修繕により法的に違反していた部分が解消された。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	新型コロナウイルスの影響もだいぶ小さくなったことから、入込客数は目標値を達成することができた。
			評価者 観光物産係長 飯塚 大悟

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	指定管理者の長年の経験に基づく運営により、効率的に事業が執行されている。今後も深谷市内の観光の中心地として、さらに効率的な運営を行っていく。
			評価者 観光物産係長 飯塚 大悟

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	
達成状況及び その効果	

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	道の駅管理事業	担当課	商工振興課	担当係	観光物産係	管理番号	37213
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
		入込客数は昨年度より減少したが、コロナ禍前と同水準まで回復してきている。令和5年度以降はアウトレットがオープンし、新型コロナウイルスの規制もなくなることからさらに入込客数が増えることが予想される。 今年度で大規模修繕が終わるが、今後も深谷市の観光の中心となるよう指定管理者に働きかけ、さまざまな事業を実施していただき市の魅力アップに努めていく。					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	商工振興課長 岩田 展雄				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	昨年度アウトレットなどがオープンしたことから花園IC拠点の施設との連携を検討していく。 また、市内の各施設との連携も進めていく。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	渋沢栄一翁の新一万円札発行に合わせ、市内への来訪者の増加が見込まれることから市の観光の中心地としてさまざまな連携を検討していく。

8. 評価指標グラフ

